

令和 年 月 日

「特発性心室細動（Brugada 症候群、早期再分極症候群）の病態と予後に関する多施設調査研究」 について

現在、筑波大学附属病院循環器内科では、国立循環器病研究センターを中心とした 11 施設と共同で、特発性心室細動（ブルガダ症候群、早期再分極症候群）と診断された方の診療情報を使って、下記の研究課題を実施しています

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、これまでの治療のカルテ情報から得られた研究データをまとめるものです。ただし、氏名や住所など個人を特定できるような情報は匿名化した上で研究に用い、学会や学術雑誌等で公表する際には、個人が特定できないような形で使用いたします。この案内をお読みにになり、ご自身がこの研究の対象者にあたると思われる方で、ご質問がある場合、またはこの研究に「自分の情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の担当者までご連絡ください。ただし、すでに解析を終了している場合には、研究データからあなたの情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。

【対象となる方】2008 年 1 月 1 日～2016 年 12 月 31 日までの間、筑波大学附属病院で特発性心室細動、ブルガダ症候群、早期再分極症候群と診断され、植込み型除細動器(ICD)植え込み術を施行された患者さま。

【研究課題名】特発性心室細動(ブルガダ症候群、早期再分極症候群)の病態と予後に関する多施設調査研究

【研究責任者】全体：国立循環器病研究センター 心臓血管内科・不整脈科 草野研吾
筑波大学：医学医療系循環器内科 野上 昭彦

【研究の目的】特発性心室細動の病態、予後を検討することを目的としています。

【利用する診療情報】

診断名、年齢、生年月日、性別、家族歴、病歴、超音波検査、心電図検査、心臓カテーテル検査、症状の有無・程度、治療内容、植込み型除細動器の記録：2018 年 12 月 31 日までのデータを用いる予定です。

【外部機関との研究データの授受】

上記の診療情報を国立循環器病研究センター心臓血管内科に郵送し、そこでデータ解析を行います。

主な共同研究機関及び研究責任者

